

夏期講習会のお知らせ

「夏を制する者は1年をも制す」「夏が天王山」、この言葉は私が受験生である頃から語られている言葉ですが、現在においても色褪せる事無く明白な真実を言い表しております。
この夏期講習会を最大限に利用して、夏にグーンと実力を伸ばしましょう！

高木塾の夏休みといえば、キーワードは「**挑戦**」です。
挑戦には大きく3つの側面があります。

1. 未知の世界への挑戦

時間に余裕のある夏休みです。この機会に新しいことに挑戦しましょう。

例えば、幼稚園生や小学生が計算ではない算数に、数学に挑戦していない生徒は算数とは似て非なる数学に、同じく読書とは似て非なる国語の読解に、中学生はさらに進んだ高校数学に、高木塾の無学年制授業のメリットを活かし、学びたい時に学びたい事に挑戦をしてください。また理科や社会に新しくチャレンジをしてみるのも良いでしょう。
高木塾ならではの、理解をして何度も早いサイクルを繰り返すことで、今まで知らなかった新しい世界が広がります。
論理的思考力を磨き、学びのコツとワザを身につけることにより、実力を養成しながら先へ先へと挑戦をしましょう。
そのことの積み重ねにより、幼稚園生～小学低学年生がオリンピックの問題を、小学校高学年～中学生が東大の入試問題を理解して解くことも可能なのです。

2. 未来のために再挑戦

これまで勉強はしてきたけれども未だ理解が足りないと思う生徒にとって、夏休みは学習を立て直すいい機会です。
わからないままに、もやもやを残したままにせずに、あきらめることなく未来に向けて再挑戦をしましょう。
新しいことに取り組むのはワクワクしますし、言わずと知れて大切なことですが、一度あきらめかけたものに屈せず再挑戦し、最初から学習しなおして今度こそ理解することは、それに負けず劣らず素晴らしいことです。また中学数学では初歩から数学全体を見直し、国語では感覚や感性に頼らない(言い換えれば読書力ではない)論理的な読解力を身につけましょう。

3. 自分への挑戦

学習は中学入試や高校入試や大学入試で終わりではありません。

生涯にわたって学び続けて自分を高め続けることは、人生の目的の一つです。怠けたい心や遊びたい心が沸き起こったときに、自らを律して学習を続ける能力を養うことは、子供のころから身につけるべき生活態度もしくは思考原理であるといえます。

言うまでもありませんが、受験生は入試に向けて論理的思考力を鍛えながら、勝ち抜くために鍛錬をしなければなりません。高木塾の夏期講習会を通して、楽しいだけで終わらない、己に負けない充実した夏を送ってください。

夏期講習期間中には、講習受講生は自習室を利用することができ、その時に自習室を担当している高木塾の講師に夏期講習会で生じた疑問点を質問し、解消してください。

暑い夏は授業の無い日でも高木塾へ来て、個性的で学問に秀でた講師と触れ合って、学問の楽しみと学問に向かう態度を吸収してください。

また、普段は忙しくて通えない通常の授業にも夏期講習会の期間のみの限定参加ができます。
受講を希望される方はメールにてお知らせください。

指導教科及び達成目的

算数

今年の夏は算数のクラスを6つ用意しています。1つは中学数学と共通クラスです。

■ 算数特訓 入試対策集中クラス

8月1日(火)～3日(木) 13時～16時

8月7日(月)～9日(水) 9時～12時

中学入試は出題される問題が6～7割解けるかどうかで決まります。上位校において基礎力を試す問題は出題されませんし、また算数オリンピックとは異なり正答率3%の問題が出題されることもありません。解いていて楽しくかつ解けてうれしい問題こそが合否のカギを握っています。

この夏は中学入試に昨年と今年の2年間に出版された、解くべき問題たちを理解しきることを目標に、どの問題をどう解けば合格できるのかを学びましょう。

このクラスは基礎学力を問う問題は扱いませんし、また反対に、超難問も扱いません。現実的な、本当に合否が決まる問題に6日間取り組むことで、何が足りないのかを客観的に把握をして、今後の学習目標を定めるとともに、算数の自信をつけてしまいましょう。

主に算数レベル4と5のクラスを受講している生徒を想定しています。

■ 算数 超難関校過去問クラス

8月17日(木) 2回 9時～12時、13時～16時

8月18日(金) 2回 9時～12時、13時～16時

算数大好き少年少女集まれ！！

夏休みにうーんと頭をひねる問題に挑戦し、ますます算数が好きになってしまいましょう。

灘、筑駒、開成、麻布、駒東、桜蔭といった日本を代表する超難関校に出題された問題に取り組み、超難関校では何が問われて、それをどう解かないといけないのかを理解する充実した2日間です。

主に算数レベル5のクラスを受講している生徒を想定しています。

■ 算数(数学) 場合の数・整数 ※中学数学と共通クラスです。

8月23日(水)～25日(金) 13時～16時

算数と数学との共通項目は、場合の数、整数、条件整理(論理)の3つがあります。これらの単元は、中学入試から高校入試、及び大学入試(東大入試も含む)のすべてで問われる上に、難問が頻出する分野でもあります。

高木塾の生徒は総じて上記の3項目が得意であるという大きな特徴を持っていますが、さりとて安心できる分野でもありません。これらは得意不得意がはっきり出る分野であり、ワザやコツを身につけているかどうかが大きく問われているとも言えます。今年は3日間と短い日数で行われますが、中学入試から高校入試まで対応できる充実したクラスです。

主に算数レベル4と5のクラス、及び中学数学レベル1クラスを受講している生徒を想定しています。

数学

■ 中学数学入門

7月24日(月)～29日(土) 9時～12時

さあ、中学数学への挑戦が始まります。

通常の中学数学のクラスを受講していない生徒で、夏は数学に取り組んでみたい、数学を知りたい、算数を数学を使って楽に解きたい、あるいは中学数学をこれまで学んできたけれども、わからないことでつまづいてしまい、やや不安を感じ始めてきた生徒を想定しています。

そうはいつでも高木塾ですから、無意味な計算練習に明け暮れるわけではありません。中学数学の初歩の初歩から始めて、一次関数と二次関数を除く中学数学の全範囲をたった6日間で理解してしましましょう。

主に算数レベル4と5のクラス、及び中学数学レベル1クラスを受講している生徒を想定しています。

■ 中学数学 関数特訓クラス

7月31日(月)～8月4日(金) 9時～12時

関数は中学数学のヤマ場のひとつではありますが、しかし毎年皆を悩ませるテーマでもあります。

関数の理解＝数学の理解と言っても過言ではない重要な分野でもあり、さらにその重要さは高校数学へとつながります。

特に、大学入試における高校数学・理科の最重要テーマ「微分積分」を理解するためには、正しい関数の知識を定着させ、それを自由自在に操れる必要があります。

しかし教科書では、一番大切な『関数とは何か』というテーマにはあまり触れないため、問題を解く際も「なんとなく」になり、解けた気になる生徒が多いように感じます。

関数の本質を学び、方程式や不等式とのつながりを理解し、自信をもって問題に取り組める力を養うのがこのクラスの目的です。

主に及び中学数学レベル1クラスを受講している生徒を想定しています。

■ 小中学生にもわかる 東大入試 数学

7月25日(火)～28日(金) 13時～16時

「小中学生にもわかる 東大過去問」シリーズが、数学クラスにもやってきました。ここで扱うのは、「数式・方程式・関数」分野の良問、難問たちです。もちろん一筋縄ではいかないものばかりです。しかし、高木塾の数学クラスで数式変形、方程式を本質から学んだ生徒であれば、ほんの少しのアシストで乗り越えられるのです。

高校生はもちろん、小学生、中学生も理解できるスピードと内容です。

講座の前半では問題を解くためのエッセンスをすべて学び、後半で東大入試に挑戦します。ここで得られる知識は今後数学の問題を解く際、いかなるレベルであろうと必ず役に立ちます。さらに、東大入試問題を理解した経験が日々の学習に自信を与えることは間違いありません。

このクラスは、中学数学1以上のクラスを受講している生徒を想定しています。

国語

今年の夏期講習会は、国語特訓 読解の論理(4 日間)、そしてお待ちかねの東大国語(2 日間)で構成されます。

■ 国語特訓 読解の論理

8 月 22 日(火)~25 日(金) 9 時~12 時

国語の読解問題(物語文・説明文)の基本的な考え方を問題演習形式で紹介します。読解問題は基本的な考え方の型を知らないと、「なんとなく」解いてしまいがちです。しかし、「なんとなく」解ける能力は実は記憶力に他ならず、テストを受けるたびに点数が乱高下するという事態に陥ってしまいます。(その理由も授業内でお話します)。さらに小中高と進む中でどんな天才でも必ず「なんとなく」が通用しなくなるタイミングが訪れ、乱高下するどころか読解問題にどう取り組んでよいのかわからなくなるのです。

そこで、「なんとなく」読む状態を脱する指針を示すべく、読解の論理の基本を紹介するのがこの講座の目的です。そのために最適な教材は「なんとなく」読めるような問題ではなく、少し背伸びをした問題、すなわち中学入試問題です。本講座の主な対象は、これから国語の学習を始めたい小学校中学年・高学年の生徒、国語を普段から学習していて入試問題形式で力試しがしたい生徒、国語の学習の指針を立てたい中学生です。

小学校中学年でも決して難しすぎる問題ではないですし、大事なのは一回限りの問題文についての理解よりも、その中で紹介する基本的な考え方(=頭の使い方)です。さらに、その頭の使い方は大学入試のその先まで一生力になってくれるものですから、幅広い生徒のご参加をお待ちしています。

このクラスは、国語レベル 3 クラス及び国語レベル4クラスを受講している生徒を想定しています。

■ 小中学生にもわかる 東大入試 国語

8 月 8 日(火)~9 日(水) 12 時 30 分~16 時 30 分 ※4 時間授業です。

講習会の大人気クラス、後藤の「小中学生にもわかる 東大入試 国語」クラスです。

東京大学の入試問題の現代文 3 問にチャレンジする講座です。たった 3 問ですが、合計 8 時間の授業をフルに使って小中学生にも理解できるようにすべてを解説します。

国語の読解の学習の本質は、難解な文章を正確に読み取り、その中身を過不足なく答案の形に変形する点にあります。その意味で読解の学習というのは小学校から大学入試まで

共通のものです。そして東大の現代文の問題というのはその頂点の1つであり、読解の学習を進めていくとどこにたどり着くのかを概観するのが本講座の目的です。すなわち、国語の読解がどういことをできるようになるための学習なのかを、入試のゴールを見ることでつかみ、今後の学習の指針にすることを目指します。

ですから、例年、東大受験を控える高校生の生徒だけでなく、最高峰のレベルを味わいたい小中学生の生徒も参加しています。小中学生が大学入試の授業に参加できる機会はなかなかありませんから、とても貴重な経験になることでしょう。

この講座のルールはただ 1 つです。それは、授業中に頭をフル回転させ続けることです。難しい問題をかなりのスピードで授業を進めますが、小中学生でも全力を出せば十分ついてこられるスピードです。

授業前の予習は難しかったらけっこうですし、帰ったら復習をする体力もなく寝てしまっても構いません。

この夏休みで最も集中して最も頭を動かす8時間を一緒に過ごしましょう。

このクラスは、高木塾の小学 4 年生から高校 3 年生までの全ての生徒および保護者を想定しています。

■ 完璧 読書感想文

8月4日(金) 13時~16時

自由研究と並んで、夏休みの宿題として課されることの多い読書感想文。

課題図書から選ぶ学校や、自由に選択できる学校まで様々です。いずれにしろ、いざ感想文を書こうとすると、一行目の書き出しを何にしているのかから悩んでしまう、また書き出したとしてもそのまま単なる感想や感情が並び、結局最後は何が言いたかったのかわからない文面で終わることも多いものです。

こんなことをしてはいけないとか、これからはこうしたいとか、かわいそうだとか、感動したとか、楽しかったとか、倫理的・道徳的観点から記述をしたり、あるいは単なる浅い感想を述べて終わってしまうことが往々にしてあります。

そこで、心を打つ、あるいは共感を得られる読書感想文とはどう構成してどのように記述すべきかを、東大法科大学院において司法の論文を書き続けている講師が、いつものように楽しく伝授いたします。

読書感想文とは文字通り解釈すると、「本を読んで思ったことを書いた文」ということになりますが、この理解はある意味では正しいのですが、同時に読書感想文の書きにくさにもつながっています。

なぜならば、大人であっても感情(〇〇の部分で楽しい気持ちになった・悲しい気持ちになった・怒りを覚えた等)のみを1000字近く文章につづるのは至難の業であり、それにもかかわらず感情だけを書こうとすれば原稿用紙が埋まらなくなってしまふのは当然だからです。かといって、長々と本のあらすじを紹介することを求めていることは「感想文」である以上当然と言えるでしょう。では、何をどのくらい書くのか、ということがこの講座でお伝えすることの1つです。

そして、書くことが分かってそれを適切な並べ方をしなければ良い感想文とは言えません。書くことを思いついた順に書いたような構成の感想文は、いかにも夏休み最終日に慌てて書いたような印象を与えますから、良い評価を得られないのも当然と言えます。そこでこの講座では書く内容に加えて、文章の展開・構成についてもお伝えします。

そして、自分で構成のしっかりとした文章を作る側になってみれば、当然他人の文章の構成の見え方も変わってきます。すなわち、整った文章を書くことは、文章の読解力という側面でもプラスになるということです。読解の指導においてよく言われる「文章全体を読みなさい」、「段落と段落のつながりを意識しなさい」という言葉が何を言いたいのか、文章を書いてみれば明らかになります。最後に受講にあたって、本講座では題材に適した本のジャンルを紹介する時間・それをどのように読み進めたらいいのかを紹介する時間も設けますが、もし題材にしたい本がすでに決まっていれば教室に持ってきてください。また、本講座の目的は良い読書感想文を書くことであって、楽にいい加減な読書感想文を書くことではありません(正しい書き方をして結果的に手間が減ることは当然ありますが、手間を減らすのが主目的ではありません)。頭をフル回転させて文章を書く経験を一緒にしましょう。

理科・社会

理科・社会においては、夏期講習会での授業を含めて授業が完結するようになっていきますので、通常授業を受講の生徒は夏期講習会を申し込む必要はありません。

■ 理科特訓 物理分野マスター クラス

7月17日(月) 2回 13時～16時、16時30分～19時30分

7月31日(月) 2回 13時～16時、16時30分～19時30分

8月21日(月) 14時15分～17時15分

今夏の理科は、中学入試と高校入試における物理分野を扱います。物理学は身の回りの現象を理解する基礎であり、これを知っているといないとでは世界の見え方が違います。

力学は、ばねやてんびんの問題のみでなく、物体の運動を司る法則まで踏み込んで扱います。小、中学校では説明されないような物理法則を、みなさんにも分かりやすく解説いたします。

また、何気なく皆さんが普段感じている光や音も様々な物理法則に基づいて発生する現象です。単なる暗記ではなく、理由を知って全ての事象を“物理的”に見ることができるようになります。

■ 社会特訓 歴史分野マスター クラス

7月24日(月) 2回 14時15分～17時15分、17時45分～20時45分

8月7日(月) 2回 14時15分～17時15分、17時45分～20時45分

8月21日(月) 14時15分～17時15分

今夏の社会は、歴史分野を扱います。歴史という学問の位置づけから学び方、テスト対策までをまとめて夏休みに行い、得意科目にしてしまいます。授業は5回行われ、石器時代から江戸時代に入るところまでを連続した物語のように理解をし、そこで行われる施策や事件をきっかけとして世の中の移り変わりを語るできるようになります。

■ 完璧 理科 自由研究の作成法

7月25日(火) 13時～16時

8月22日(火) 13時～16時

■ 完璧 社会 自由研究の作成法

7月30日(日) 17時～20時

今年はやります、社会の自由研究作成法。

昨年は理科の自由研究作成法の授業が行われ大好評でしたが、今年のご要望にお応えして「社会」の自由研究作成法のクラスを開講いたします。

夏休みの宿題として課されることの多い自由研究。

毎年、何を題材とするのか、また、題材を決めたはいいが何をどう調べて、どうまとめればいいのか、親子ともに悩むのが自由研究。また、時間をかけて作成して、学校の先生や友達に見てもらったもののすばらしい！との評価を得るのがいかに難しいかも経験済みのことと思います。

そこで高木塾では、将来の調査研究活動にも役に立つように、現在、東大大学院にて実際に研究活動を行っている講師が小学生にそのノウハウを還元します。

これで今年だけではなく、今後の自由研究を行う上での基礎となり、夏休みの親子の大きなお悩みの一つが解消します。

例えば「理科」において。

実は科学の実験には、「ルール」が存在します。どうやって取り組むのか、どうやってやったことを表現するのか、など。ただ結果だけではなく科学者としての最初の一步を踏み出す自由研究ができるような講義をいたします。7月25日には各自のテーマを元にして1か月間の研究レポートづくりを伝授し、8月22日には実際に作成した自由研究レポートを元に最後の修正訂正を行います。

★第8回 ディズニー・デイ 8月10日(木)★

今年もやります、ディズニー・デイ！ 今年には行きます、ディズニー・シー！

去年はディズニー・ランドに行きましたが、今年にはディズニー・シーに行きましょう。

入場パスポート料は高木塾が負担いたします。交通費、食費とおやつ&飲み物代をお持ちください。

携帯電話も絶対に忘れないように。持参携帯で、私(高木 090-6113-8688)からの受発信をできることが条件です。

ディズニー・シーで一日思いっきり遊びましょう！なお、当日は参加者全員で団体行動ですよ～！

※幼稚園生の生徒が参加の場合のみ、保護者も同行動をお願いします。

※ディズニー・デイは夏期講習会を5コマ以上申し込んだ全塾生が対象です。

朝7時30分に、東京駅構内のユニクロ前集合

現地を16時に出て、東京駅の同じユニクロ前で解散(17時を予定)